

令和6年3月31日

## 令和5年度 学生自主研究成果報告書

教 育 本 部 長 様

学生自主研究グループ名	かりわんよいしょよいしょ	
研究課題名	主に高齢者が徒歩移動を積極的に楽しむことを支援する「街の憩いの場」の提案 ～大仙市刈和野でのケーススタディ～	
研究代表者（学生）	学籍番号	B25C015
	氏 名	佐々木 李瑠
指導教員	学 科	建築環境システム学科
	氏 名	浅野 耕一

学生自主研究の報告書を別紙のとおり提出します。

主に高齢者が徒歩移動を積極的に楽しむことを支援する「街の憩いの場」の提案  
～大仙市刈和野でのケーススタディ～

システム科学技術学部 建築環境システム学科  
1年 佐々木 李瑠  
1年 八巻 千尋  
指導教員 システム科学技術学部 建築環境システム学科  
准教授 浅野 耕一  
教授 須田 眞史

1. はじめに

我が国の過疎化が進む地域では、まちの空洞化が進み、店舗や公共施設が散らばることで生活が不便になっている。高齢者の移動手段として電動カート（シニアカー）や乗り合いタクシーの充実も一つだが、徒歩移動には健康維持・増進やコミュニケーション促進の利点がある。そのような背景から、シルバーカー／歩行器（歩行車）の利用者も増えている。

しかし、国民の歩行量は減少傾向にあるのが現状である。特に、定年退職後の高齢者などは外に出る目的が少なく、外出を避けることが多い。自宅近くに目的地があることで徒歩移動の促進につながると考えられる。

そこで、徒歩移動時に休憩ができる場所を提供しようと考えた。休憩ができる空間かつ住民同士のコミュニケーションがとれる空間である憩いの場を提案する。本研究では、刈和野を対象として地域のニーズに合わせた憩いの場を創造し、提案することを目的とする。

2. 研究方法

ケーススタディとして筆者の地元である大仙市刈和野を対象とする。まず、基礎調査として刈和野の現状を把握する。地域のニーズに合った憩いの場を提案するにあたり、地元住民のライフスタイルを調べる、パーソントリップ調査を採用する。パーソントリップ調査では地域約400世帯にアンケート用紙を配り、世代別に休日と平日の移動を調査する。

基礎調査から地域住民のライフスタイル、地域の人が集まる場所や動線を明らかにする。その分析結果をもとに憩いの場の配置計画を行う。

憩いの場は、電気などを通さない簡易的のものとトイレなどを設備したものの2つを提案する。建築雑誌を参考にしながら、デザインを創造する。

令和6年度 刈和野地域パーソントリップ調査 調査日 [ ] 月 [ ] 日 [ ] 曜日

個人票 平日

個人票の整理番号 [ ]

記入についてのおねい  
 ① 記入はなるべく色ペンまたは血印で世帯全員におねいします。  
 ② 調査票に番号が印字されている場合は、該当する番号の○を記入して下さい。  
 ③ 調査票に「？」がついている場合は、具体的な数字や文字を記入して下さい。  
 ④ 記入はなるべく調査票がもらった日を選んで記入して下さい。

① 1日のはじめに付いた場所  
 1. 自宅 2. 勤務先 3. 通学先  
 4. その他 (以下も記入して下さい。) 住所 (書地不要) [ ]

② 1番目に付いた場所  
 1. 自宅 2. 勤務先 3. 通学先  
 4. その他 (以下も記入して下さい。) 住所 (書地不要) [ ]

③ 2番目に付いた場所  
 1. 自宅 2. 勤務先 3. 通学先  
 4. その他 (以下も記入して下さい。) 住所 (書地不要) [ ]

④ 3番目に付いた場所  
 1. 自宅 2. 勤務先 3. 通学先  
 4. その他 (以下も記入して下さい。) 住所 (書地不要) [ ]

⑤ 4番目に付いた場所  
 1. 自宅 2. 勤務先 3. 通学先  
 4. その他 (以下も記入して下さい。) 住所 (書地不要) [ ]

⑥ 5番目に付いた場所  
 1. 自宅 2. 勤務先 3. 通学先  
 4. その他 (以下も記入して下さい。) 住所 (書地不要) [ ]

※⑦以降の記入は自由記述をお願いします。

出典：地理院地図

図1 個人票 (平日)

刈和野地域パーソントリップ調査 令和6年4月18日

アンケート調査ご協力のおねい

刈和野地域パーソントリップ調査実行委員会  
 刈和野地域パーソントリップ調査  
 刈和野地域パーソントリップ調査  
 〒984-0204 大仙市刈和野  
 TEL:090-1807-9288

おねい合わせ先  
 刈和野地域パーソントリップ調査  
 刈和野地域パーソントリップ調査  
 〒984-0204 大仙市刈和野  
 TEL:090-1807-9288

世帯票

記入についてのおねい  
 ① 調査票に番号が印字されている場合は、該当する番号の○を記入して下さい。  
 ② 調査票に「？」がついている場合は、具体的な数字や文字を記入して下さい。

問1 あなたのお世帯の世帯員 (5歳以上) についておねいください。  
 ※個人票とは、この「個人整理番号」が世帯員それぞれのおねいになります。

個人整理番号	性別	年齢	自動車の運転免許	外出する頻度	近所などの付帯
1	1. 男 2. 女 無 [ ] 才	1. 持っている 2. 持っていない 無 [ ] 才	1. 持っている 2. 持っていない 無 [ ] 才	1. 頻りに必要 2. 状況に応じて必要 無 [ ] 才	1. 頻りに必要 2. 状況に応じて必要 無 [ ] 才
2	1. 男 2. 女 無 [ ] 才	1. 持っている 2. 持っていない 無 [ ] 才	1. 持っている 2. 持っていない 無 [ ] 才	1. 頻りに必要 2. 状況に応じて必要 無 [ ] 才	1. 頻りに必要 2. 状況に応じて必要 無 [ ] 才
3	1. 男 2. 女 無 [ ] 才	1. 持っている 2. 持っていない 無 [ ] 才	1. 持っている 2. 持っていない 無 [ ] 才	1. 頻りに必要 2. 状況に応じて必要 無 [ ] 才	1. 頻りに必要 2. 状況に応じて必要 無 [ ] 才
4	1. 男 2. 女 無 [ ] 才	1. 持っている 2. 持っていない 無 [ ] 才	1. 持っている 2. 持っていない 無 [ ] 才	1. 頻りに必要 2. 状況に応じて必要 無 [ ] 才	1. 頻りに必要 2. 状況に応じて必要 無 [ ] 才
5	1. 男 2. 女 無 [ ] 才	1. 持っている 2. 持っていない 無 [ ] 才	1. 持っている 2. 持っていない 無 [ ] 才	1. 頻りに必要 2. 状況に応じて必要 無 [ ] 才	1. 頻りに必要 2. 状況に応じて必要 無 [ ] 才

図2 世帯票

### 3. パーソントリップ調査

図1, 2のアンケート用紙を地域400世帯に研究者らで配布し, 調査を行った。回答世帯は約80世帯である。一世帯5人と仮定し, 性別, 年齢, 自動車免許の有無, 外出する際の付き添いの要否の項目が世帯票にある。個人票では, 世帯票の個人整理番号の伴い, 一日の移動を記入する。交通手段や目的地など項目に記入し, 地図に通ったルートを記入する。個人票の地図上にルートを記入することで, 人が多く通る道や軽く寄っただけの道を細かく把握することができる。

刈和野

人口:

1 2 4 8 人

世帯数:

4 6 8 世帯

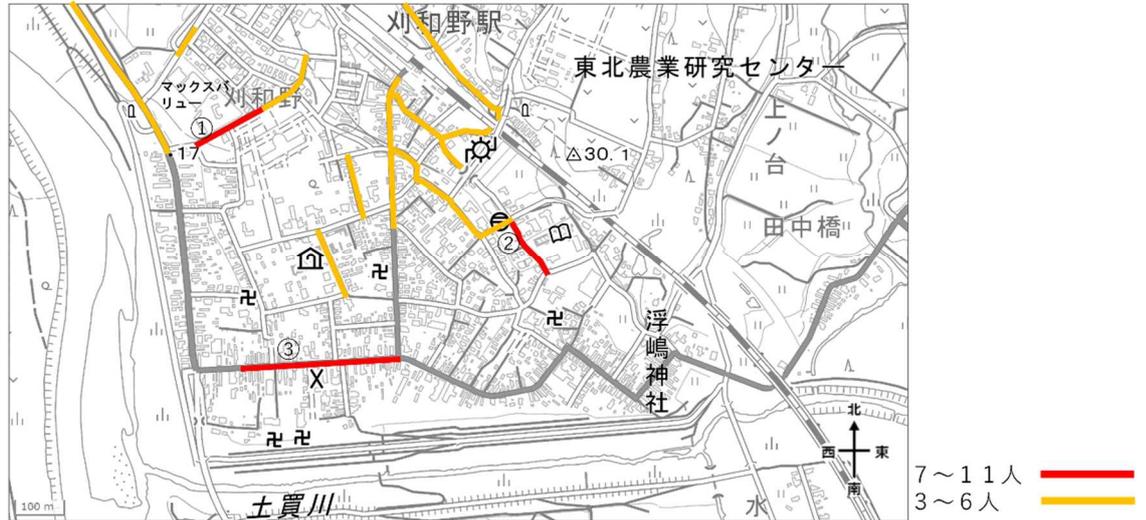


図3 高齢者の徒歩移動

図3は調査の結果から高齢者(65歳以上)の徒歩での移動をまとめたものである。多くの高齢者が通る道に①~③の番号を振る。①~③に高齢者が集中した理由を考察する。

- ① 道路上に刈和野で最も大きいスーパーマーケットのマックスバリュ 刈和野店がある。スーパーマーケットから近い住民は徒歩で移動する。男女別で徒歩移動をまとめた結果から, 男性より女性が多く①の道を通っていることが分かった。買い物のために多くの高齢者が①の道を通る。
- ② 路上には図書館と大綱引きの伝承館が併合された大綱交流館がある。また, 交差点には郵便局がある。これらの施設を利用するために②の道は多くの高齢者が通る。
- ③ ③の道から細い道に入ったところにお寺がある。お墓参りに行く人が多く通る。お寺には数台しか止められる駐車場がなく徒歩で移動する高齢者が多い。

### 4. 憩いの場の提案



図6 憩いの場の配置場所

## 東屋タイプ

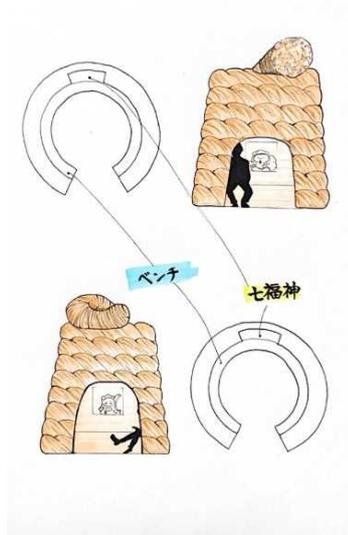


図7 スケッチ



図8 模型

電気、水道などのインフラを通さない7つの憩いの場の提案である。近年日本各地で行われている徒歩で各地点をまわる七福神めぐりと子供も楽しめるスタンプラリーから発想を得た。地域内の7つの憩いの場にスタンプを置き、各憩いの場をまわることでスタンプラリーを楽しむことができる。図7のオレンジ色と青色が提案1の配置場所である。徒歩で地域内をまわることで、健康増進と住民同士のコミュニケーション促進が見られる。七福神めぐりとスタンプラリーを掛け合わせた。図6はそれぞれのスケッチと模型である。7つの憩いの場は地域の特色を生かしたデザインである。秋田県大仙市の花であるコスモスや刈和野の伝統行事である大綱引き、積雪量の多い地域ならではのかまくら、温泉、黒森山、ツキノワグマをモチーフにしたデザインである

## 拠点タイプ

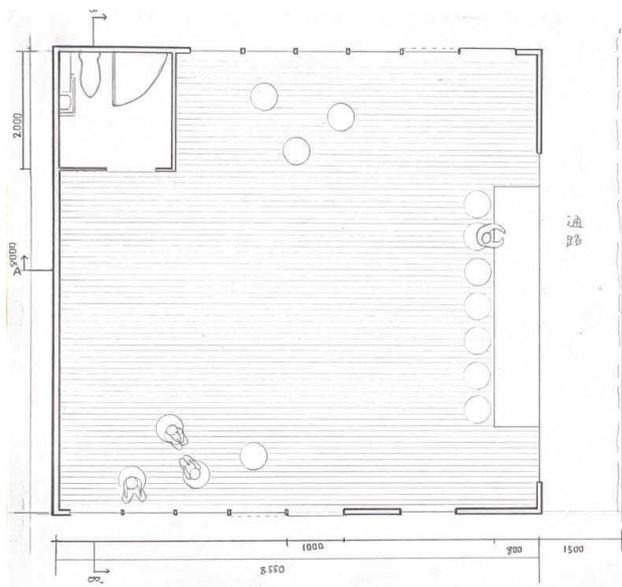


図7 平面図

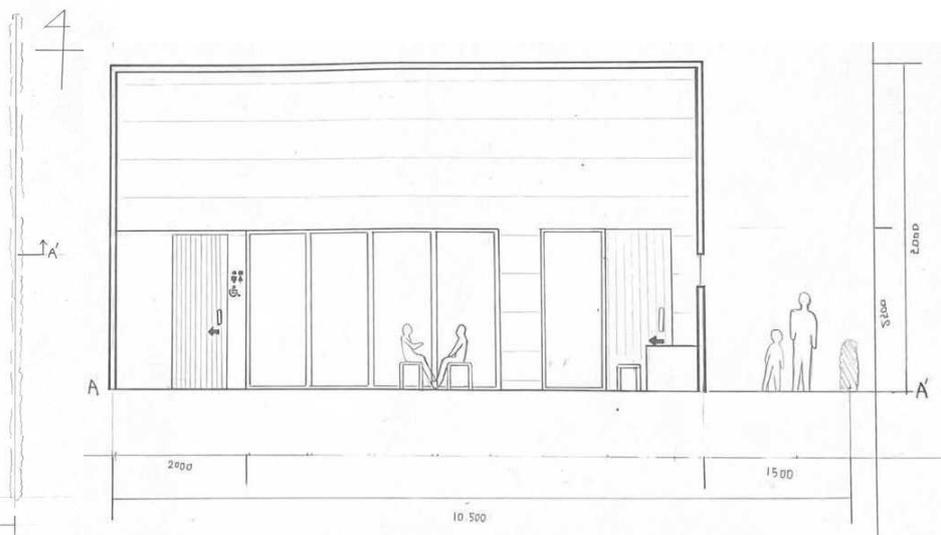


図8 断面図A

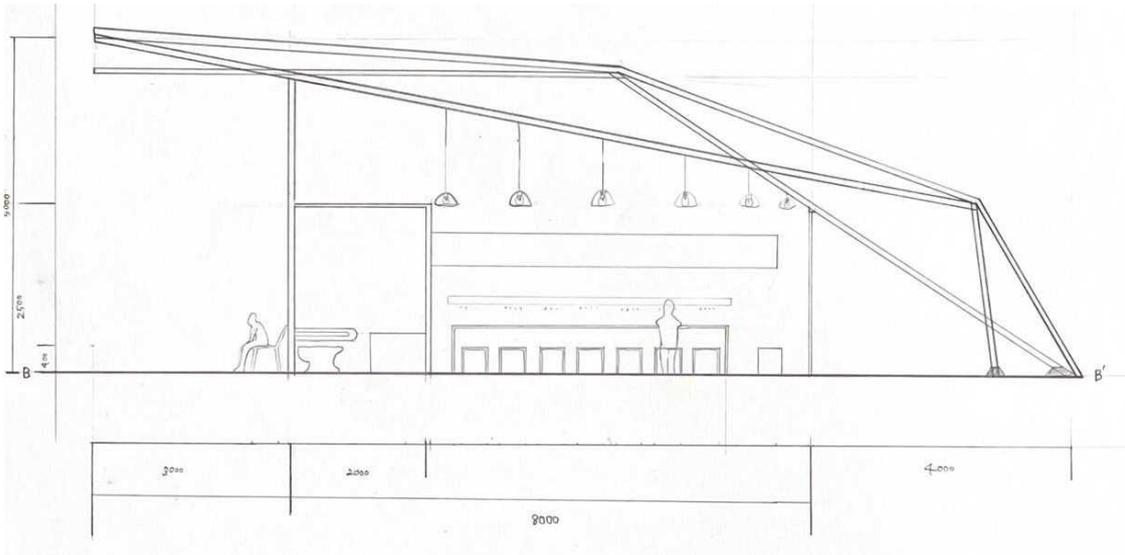


図9 断面図B



図10 敷地図

電気、水道を通しバリアフリーを意識した提案である。建築場所は図7の青色の土地である。敷地面積は $39,000 \times 10,500 \text{mm}^2$ である。対象地域は豪雪地帯であるため、半ドーム型を採用した。同時利用人数は10人程度と想定している。道路に面している入口面に窓を多くし、室内の見通しが良く入りやすいようにした。奥行きのある土地を生かし、建物を土地の中間に置き、手前には駐輪場やベンチを設置した。高齢者だけでなく、広い世代の地域住民にも利用してもらうために、奥には芝生を引き子供たちが遊べる空間をつくった。奥の広場に室内を通らずに行けるように外に通路をつくった。室内はカウンターテーブルと多機能トイレを設置した。室内には15脚ほどの椅子を用意し、自由において座れるようにした。入口から出るまで段差をなくし車いす利用の人や高齢者が訪れやすくした。

## 5. まとめ

基礎調査ではパーソントリップ調査に地図を入れ込みルートを記入してもらうことで、地域住民の動線および細かなルートを明らかにすることができた。世帯票と照らし合わせて、世代ごとに住民の集中した道からどのような目的でその道を通ったのか分析した。

基礎調査・分析の結果を踏まえて、地域のニーズを理解し、2つの提案をした。休憩が取れ、住民同士のコミュニケーションが促進されるデザインを提案した。

では徒歩移動が楽しめる7つの憩いの場を想像した。7つの憩いの場をまわることが高齢者の外出する目的になる。

提案2では、子供から高齢者まで幅広く憩いの場を利用し易い工夫がある。奥行のある土地に建築物を中間に置き、奥に広場を設計した。また、多機能トイレや段差をなくす工夫を凝らした。

これらの提案は移動手段が徒歩移動に限られがちな高齢者の移動を促進する。そして、まちの空洞化がすすんだ我が国でも、高齢者が店舗や公共施設に行きやすくなる。